

ナロードニキ主義の3つの特徴

——ナロードニキ主義という言葉でわれわれは、つぎの三つの特徴をふくむ考え方の体系を理解している。(一) **ロシアにおける資本主義を衰退、退歩とみとめること**。このことから、古来の支柱の資本主義による「破壊」を「阻止し」、「引きとめ」、「停止させようとする」志向や願望や、これに似た反動的な叫びが生まれてくる。(二) **一般にロシアの経済体制の、とくに共同体、アルテリ、等をもった農民の、独自性をみとめること**。近代科学によって作りあげられた、さまざまな社会階級とそれらとの闘争(原文は“の争闘と”)についての概念をロシアの経済関係に適用することは、不必要とされる。共同体農民は、資本主義とくらべて、なにかしらより高く、より良いものとみなされ、「支柱」の理想化が現れる、農民のあいだでは、あらゆる商品経済、資本主義経済に固有な諸矛盾が否定され、隠蔽され、これらの諸矛盾と、資本主義的工業および資本主義的農業における、そのいっそう発展した形態との結びつきが、否定される。(三) **「インテリゲンツィア」および国の法律=政治制度と、特定の社会諸階級の物質的利害との関連を無視すること**。この関連を否定すること、これらの社会的要因の唯物論的説明が欠除していることが、彼らに、「歴史を別の針路にそって引っぱってゆき」(ヴェ・ヴェ・氏)、「道からそらせる」(ニコライーオン氏、ユジャコフ氏、その他)等々のことができる力を、これらの要因のなかに見させるのである。これが、「ナロードニキ主義」という言葉でわれわれが理解しているところのものである。……………

ロシアにおける資本主義とそれに固有な諸矛盾との発達がまだきわめて弱いあいだは、資本主義にたいするこのような素朴な批判をも維持することができた。……………ナロードニキ主義は、資本主義の問題を最初に提起したものとして、かつては進歩的であったけれども、現在では社会思想を混乱させ、停滞とあらゆる種類のアジア性とに奉仕する反動的で、有害な理論となっている。

〈第二巻 どういう遺産をわれわれは拒否するか P512~515 〉

1897 年末に流刑地で執筆

コメント

私たちは没階級的な「民主主義」というイデアの発展に社会の進歩を託すのではなく、労働者階級の歴史的使命に社会の進歩を託さなければならない。そのために、**学び、宣伝し、組織しなければならない**。